

科目名 基礎看護援助技術実習 時間割表記名 基礎看護援助技術実習	配当時期 1年次 5月 単位数 1単位 時間数 30時間(5日間)	講義担当者 筒井 雅子
事前学習内容 実習要項に準ずる		
科目全体のねらい・授業目標 【実習目的】 看護の対象である人間を理解し、科学的根拠に基づいた看護実践の基盤となる能力を習得できる。 【実習目標】 1. 患者の生活の場である療養環境を理解できる。 2. 療養生活に対する患者の思いを理解できる。 3. 看護の実際を通して、看護師の役割を知ることができる。 4. 保健・医療・福祉チームの一員としての自覚を持ち、専門職業人として望ましい態度がとれる。		
DPとの関連 DP1. 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的・霊的に統合された生活者として理解できる DP2. 一人ひとりの健康状態に応じて、最善の看護を選択し、科学的根拠に基づいた看護を提供できる DP3. 一人ひとりの個性(多様な価値観)や人権を倫理観に基づいて看護を実践できる DP4. 保健・医療・福祉システムにおける自らの役割を理解し、多様な場で生活する人々の生活の質の向上のために多職種と連携・協働する意義と方法を理解することができる DP5. 自己を理解し、他者を尊重したうえで、人間関係を構築することができる		
実習の流れ 本実習では、「患者の生活の場である療養環境」「療養生活に対する患者の思い」「看護師の役割」について、療養する患者を取り巻く環境と看護師の役割を学ぶ。 臨地実習初日に、病院の組織、機能・構造について全体オリエンテーションを受け、患者が療養生活を送る病院施設について理解する。その後、各病棟で病棟オリエンテーションを受け、病棟及び病室内の環境の測定や観察を行い、事前学習を照らし合わせながら療養環境が患者にもたらす影響とその根拠を理解する。 実習2日目、3日目は看護師のシャドウイングを通して看護師の役割について学ぶ。患者とコミュニケーションを図り、患者がどのような思いで入院生活を過ごしているのかを理解する。臨地実習終了後、学内実習でまとめを行い、学びを全体で共有し今後の課題を明らかにする。		
評価 ルーブリックに沿って評価する。		
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術 I 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術 II 医学書院 他 既習のテキストを活用する 参考文献		